

I. 「台湾師範大学との英語教育実践交流プログラム」とは

1. プログラムの目的

本プログラムは、金沢大学（責任者 山本卓教授）と台湾師範大学（担当教員 梁孫傑教授）との間の交流プログラムであり、平成23年度初めて実施されたものである。このプログラムは単なる留学プログラムとは違い、英語教員を目指す日本人学生（金沢大学生）と台湾人学生（台湾師範大学生）が相互の国を訪問し、相手国で行われている英語教育実践を体験することによって、英語教育に対する複眼的視点を獲得することを主たる目的としている。

2. 附属高等学校の取り組み

今年度は、台湾師範大学生5人の受け入れ（2週間）において、最初1週間は附属高等学校、残りの1週間は附属中学校があたることになった。附属高等学校での台湾人学生のスケジュールは主に以下のようなものであった。

- 2月6日（月） 午前：金沢大学での打ち合わせ
午後：附属高等学校で、6限目と7限目の授業見学
- 7日（火） 一日附属高等学校で翌日の授業プランを練る。また、朝のSHから参加することにより、日本の高校での時間の流れを確認する。
- 8日（水） 授業実践（1人が1クラス担当）
1限目：2A（英語Ⅱ）
2限目：2C（英語Ⅱ）
4限目：1C（英語Ⅰ）
5限目：1B（英語Ⅰ）
6限目：2B（英語Ⅱ）
- 9日（木） Taiwan Hour（台湾に関するプレゼンテーション）
65回生が台湾現地学習を控えていたので、各クラス1時間で、台湾人学生に英語で台湾に関するプレゼンテーションを行ってもらった。
- 10日（金） 一日大学でのセッション

以下はその記録である。

